

第3期第4回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕2016年9月27日（火）15:00～17:00

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委員：岩本 陽児、太田 まゆみ、大野 浩子、島田 忠次、白崎 好邦、辰巳 厚子、
中里 静江、前田 美幸、柳沼 恵一
以上 9名

事務局：板橋センター長、鈴木担当課長、小林管理係長、松田事業係長、
高木担当係長、中野担当係長、村田担当係長、渡部担当係長、齊藤主事（記録）

〔欠席者〕陶山 慎治、中村 香、上村 まり

〔傍聴人〕1人

〔資 料〕・第4回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・まちだ市民大学HATS 概要（資料1）
- ・生涯学習センター運営協議会の事業評価について（資料2-1）
- ・運営協議会における現状の事業評価（企画・評価）のながれと今後について（資料2-2）
- ・まちだ市民大学HATS 前期講座（資料11-1～11-8）
- ・平和祈念事業（資料12-1、12-2）
- ・コンサート事業（資料13）
- ・乳幼児の保護者向け家庭教育力アップ講座（資料14）
- ・和光大学共催講座（資料15）
- ・東京都公民館連絡協議会の報告（資料16～17）

<議題>

1. 協議事項

会 長：事業評価について、前回様々なご意見を頂いたので、事業評価についての認識を共通にした上で、本日は前回の続きとして、議題2の協議事項から始めさせていただきます。

○事務局の説明（資料2-1）

前回頂いたご意見を検討した上で、改めて事業評価について事務局側の提案をいたしたい。

1. 「評価」について・・・「評価」という言葉にとらわれることなく、事業のプロセス、企画内容、成果といった観点から、課題を発見し、今後の事業の改善点を探るものであるとご理解いただきたい。
2. 運営協議会の意見のとりまとめについて・・・事業の本数が多い上に、既に終了した事業も多い。全ての事業に参加するのは困難である等の理由で、出席委員に順番に事業の評価を割り当てるので、会議で出た意見の集約を行っていただきたい。事前に事業の評価者を割振るのは、事業評価の方法（事業の集約）を含めて、今後の検討課題とする。
3. 情報量の増加・・・当該事業のアンケートやチラシ等、評価のために提供する情報量を増やす。
4. 企画段階の説明の廃止・・・事業本数が多すぎるため、企画書は送付するが、企画段階の説明を廃止。
5. 事業評価シート・・・<実施結果>と<分析>で構成されている。各指標やアンケート結果を元に、今後の事業の改善点を探り、<運営協議会意見>の欄に、会議で出された意見を担当の委員が、自身の意見も含め、取りまとめて編集し、記載する。

以上より、事務局の提案①事前送付資料の拡充。②協議を「事業実施後」のみとする。③運営協

議会の意見の記入者の事前割り当ては、次年度以降の検討事項とする。この3点について、ご提案させていただきます。(資料2-2)

○質問・意見と事務局の回答

委員：事業コストについて、「資料代」の欄には、受講者が支払った具体的な金額を明記されたい。

事務局：資料代は市民大学のみ。()で金額を記載したい。

委員：「出席率」とは、延べ受講者数を回数で割った平均出席率か。

事務局：お見込みのとおりである。

委員：「分析」の評価A～Dの付け方についてA＝80%以上といったような基準があるか。担当職員の感覚的なものか。

事務局：概ねの基準はあるものの、検討の余地がある。

委員：資料代1,000円について、事業コストは1人当たり4,400円、高いように思うが評価はAである。「出席率」については、平均ではなく各回の実質出席率も必要ではないか。

事務局：事業コストは内容に見合っているかどうかである。「出席率」の変動は成果や課題の欄で記載できる。

委員：事業コストがなぜ必要なのか。職員の人件費(平均値)も加味されているようだが。

会長：相対的なものである。他の事業と横並びで見れば、目安として比較できる。

センター長：事業にはどれだけのコストがかかっているのかをまず知っていただいた上で、見合った効果があるのか、改善できるかどうかの参考にしていただきたい。

会長：先程の事務局提案3点の中、情報量の提供について、アンケートの結果を統一出来ると良い。資料が多いのは良いと思う。他の事務局の提案についてご意見はあるか。

委員：協議を事業実施後のみに絞ることについては、限られた時間を有効に使い、事業評価により重点化して協議するためには良い方法と思われる。運営協議会意見の記入者を従前どおり順番で割り当てることについて、事前に割り当てられていれば、その事業に参加することも出来る、という趣旨であることはご理解いただきたい。

委員：「事業評価」ではなく「事業分析」であり、次年度により良い講座をつくるためのものである。「評価」という言葉を使わずに、思い切って「事業分析」とすれば良いのでは。評価する講座数が多いということだが、個々の事業は一つ一つよく作られているのだが、センター全体の事業の中での位置づけという観点から判断するために、もう少しまとめておこなってはどうか。

委員：全体をどうするかという課題については、我々が意見を出していくべきだ。

委員：各事業はそれぞれカテゴリーがあるので、それに基づいてまとめてはどうか。

事務局：名称については、意思疎通が出来れば、変更もやぶさかではない。いただいた意見をもとに、今後の検討をしていきたい。

委員：「運営協議会意見」は会議で出された意見を担当者がまとめるということによいか。

事務局：事前に配布した資料からあらかじめ寄せられた意見や、当日の協議内容をもとに編集していただく。

委員：運営委員の意見、担当職員の分析だけでなく、事業を作った人の意図を汲んだ評価にならないだろうか。また、プログラム委員に対しては、事業のアンケート等は次のプログラム作成前に届くが、事業評価はいただいていない。

事務局：評価を一緒に行うかどうかについては、プログラム委員の役割とは別である。

会長：プログラム委員に対して事業評価を開示することについては、今後方法等を検討していただくと良いのでは。

会長：当面事務局提案通りで進めることとする。

事業評価

担当割り当てについて(資料NO.に基づく)

11-1 岩本委員、11-2 辰巳委員、11-3 大野委員、11-4 島田委員、

11-5 白崎委員、11-6 前田委員、11-7 太田委員、11-8 中里委員、

12 柳沼委員、13 岩本委員、14 辰巳委員、15 大野委員

① 市民大学HATS 前期講座（資料11-1～11-8）

（1）市民大学 まちだの福祉「くらしを支える～ひと・まち・こころ～」（資料11-1）

事務局：アンケートの分析から、福祉のことを知りたいという結果をもとに企画した。募集定員30人に対して、最終受講確定者数が18人と定員割れとなった。担当としては、内容を再検討したいということで、B評価が多くなった。パラリンピックに焦点を絞ってもよかったのではという意見もある。

第2回目のパラリンピック公開講座には講師に銀メダリストの鹿沼友理恵選手も来られたが、期待度としては低かったが、受講修了者の方の満足度は非常に高かった。

（2）市民大学 「町田の郷土史～人物でたどる」（資料11-2）

事務局：切り口を変えて、いろいろな人物をあげた。前年度と違い、受講後に話合いの時間を15分程設けた。資料代は3,000円。人数はちょうど抽選にならなかった。効果の指標は、理解が深まった、学習を続けたいというのは高いが、市民としての意識が高まったというところでは、59%と低い。アンケート回収率は58%と低い。今回は、朝から一日「バス見学」という内容であったので、出席できない人・途中で帰られる方が多かった。抽選にならなかったため、町田市外の方の受講者も多く、市民としての意識という点では伸びなかった。成果としては、毎回講座のお手伝いして下さる市民大学修了者の団体「まちだ史考会」に、受講者の5名が講座終了後入会した。

（3）市民大学 「“こころ”と“からだ”の健康学～健やかに生きるには～」（資料11-3）

事務局：資料代は2,000円。講座の評価はオールA。これは、市民大学でも人気の講座で、募集定員を超える応募があったこと。アンケートの回答結果もよく、効果指標も80%近くの満足度を達成した。あえて課題とするならば、受講者の年齢が高まりつつあるので、若い世代へも呼びかけられるプログラムを企画したい。

（4）市民大学 前期「まちだ市民法学」（資料11-4）

事務局：実施時間は19:00～21:00で、仕事帰りの方の受講があった。募集が100名と多いところ、定員割れではあるが、77人の応募があり、市民大学としては人気の高い講座の一つである。最終回が交流会で、出席人数が少なかったため、アンケート回収率は低かったが、効果指標については「法の基礎を知ることが出来た。」「継続的に法について学びたい。」と回答した人が共に100%を達成した。公開講座は中止となったが、全員に電話をつなぐことが出来、大きな混乱はなかった。交流会（グループディスカッション）はかなり活発に行われ、世代間交流が出来たという意見をいただいた。各講師に市民大学の意義や位置づけの理解を促したが、講座の中立性や公平性について、外から指摘されることも多く、課題である。

（5）市民大学『21世紀的生き方』講座（資料11-5）

事務局：人間関係学の講座である。資料代は3,000円。「事業運営の効率性」と「参加者の満足度」についてBとした。応募は若干の定員割れで少なくなかったが、回を追うごとに出席数が減っており、理由としては講義の後にグループディスカッションを毎回行ったことにより、それを好まない受講者の出席が落ちたものと思われること。講座の満足度についても、講師の話がもっと聞きたかった、グループ討議が多すぎるという意見が多く、アンケート結果の満足度が低くなったためである。

（6）市民大学 環境学 前期「まちだdeエコ・ツアー」～楽しく体験！環境ボランティア～（資料11-6）

事務局：座学はほとんどないこともあり、資料代は1,000円。募集定員24人に応募は満たしたが、回を追うごとに出席者が減少。出席率が47%である。したがって、1人当たりの事業コストが5,609円に跳ね上がった。

成果としては、ボランティア活動への参加を促すような意義のあるいい講座であり、参加された方の満足度は高くなっている。課題としては、講座終了後のボランティア活動への意欲を示す人が少数。梅雨時ということもあり、後半の類似活動を欠席する傾向となる。時期や回数等プログラムの再検討が必要。以上の理由からも、評価についてはBが多い。

委員：保険はどうなっているか。

事務局：公民館の利用者や、事業に参加（公民館の外で行われた事業含む）された方については、公民

館として加入している保険があるので、そちらが適用される。

(7) 市民大学 後期「陶芸 電動ロクロ体験講座」－地球にやさしいやきもののリサイクラー（資料11-8）

事務局：定員に満たなかったが、出席率は90%と非常に高く、効果指標（陶芸についての理解を深めた）も非常に高い。初めての方が8割。座学ではなく、何かをつくりたいという人にとって入り易い講座である。先生が丁寧で、補助者もいるので作品がそれなりに出来るという満足感もある。過去10年間で受講者はかなり減少した。2006年度は24人の定員に89人もの応募があった。ブームが去ったということがあるのだろうか、募集方法等、今後の課題である。

○質問・意見と事務局の回答

委員：定員の決め方について。欠席者が出るのであれば、多めに受講者を設定してはどうか。

事務局：50人の定員の講座は、会議室を使用するので、椅子の関係から難しい。講座によっては、スペースの関係と応募状況を見込んで調整をしている。

委員：アンケート回収率について、欠席者の多かった最終回に集め、確定した受講者数で割っている、ということではどうか。

事務局：お見込みのおりである。以前、最終回の参加人数で割ったところ、結果が100%となり、受講者全体の100%ではないのでは、との指摘を受けて変更した。

事務局：欠席者にアンケートを送ってみたが、回収率は大変低かった。

委員：出席率が減っていったという講座がいくつかあったが、評価のところで、AとBしかなく、CやDは一つもない。評価として判断しにくい。

会長：今後の検討課題といたしたい。

委員：(6)のエコ・ツアーについて。子ども参加OKで、対象は20代、30代の人でも対象と思われるが、その参加者がいない。保育もない。すごくいい市民団体がいくつも出ているが、回数が多く、交通費も自費で、子連れにしても、シニアの方にしても少し大変だろう。回数を半数にする、子供世帯にターゲットを絞る、全回参加でいきいきポイントがつく、など検討してはどうか。(5)の人間関係学は、夜で参加者もリピーターが多い。

委員：グループディスカッションには「問い」というのがとても重要である。毎回感想を述べ合うだけだと嫌になるかもしれない。「問い」をたてるというのは大変難しいが、学んだことから「何を考えなくてはいけないか」ということを、講師の先生に考えて、「問い」を出していただくことで、講座の内容を深められる。

会長：どのようなディスカッションだったか。

事務局：講義を1時間。休憩をはさんで、20分がグループディスカッションであった。講義を目的としており、講師の方に「問い」は設定してもらったものの、グループディスカッションを想定した講義内容ではなかったようで、受講者からも話をもっと聞きたかったという意見が多く寄せられた。

委員：非常に重要な問題。韓国の学者が「学習消費者」という言葉を発明した。講座や学習会があると、話を聞くことを目的に楽しみにやってくるが、学んだことを共有し、自分たちがそれを地域に返そうというところまでいかない人が多い。このような「学習消費者」をどう主体的な学習者にして、地域の基盤になるような人に育てていくか、ということが社会教育の肝である。やり方次第だと思う。是非、学習後のディスカッションを厭わないようなやり方を検討していただきたい。

委員：(5)の人間関係学について、夜間中学の見学はなくなったのか。参加してとても良かった経験がある。

事務局：今回はプログラムで提案としてあがらなかった。

事務局：(5)の人間関係学のプログラム委員の考え方として、ディスカッションを重視した。

委員：(4)の市民大学 法学について、内容的にはとても良かったのでは。小林先生の講座が中止になった理由は何にか。公平性・中立性の担保が難しいということだが、憲法問題を取り上げれば、必ずどちらかにぶれる。公平性・中立性をどう担保するのか。

センター長：小林先生の方から辞退の申し出があった。公平性・中立性については講座の取り上げ方も

含め、課題である。

委員：(1)の講座は4,417円と、他の講座に比べ高い方だがなぜか。

事務局：資料代や出席人数によって変わってきてしまう。

委員：陶芸について、去年から定員割れしているが、原因について何を考えるか。ブームだったのか。

事務局：場所が下小山田リサイクル文化センターで遠い。街中に陶芸の工房も出来てきていることも原因ではないか。

② 平和祈念事業（資料12-1, 2）

事務局：8月1日から一週間、昨年より2日間短くなったが、マイナス5人とあまり変らなかった。子ども向けにPRしたのもよかったのではないか。

会長：来場者のサポーターズさんのカウントは。

委員：柳沢先生と、桜美林の学生のディスカッションについて、いろんな人がいろんな意見を言える世代間交流も出来るというとても良いプログラムだったので、ビブリオと共によい事業だった。

委員：来場者数の表の見方について。

事務局：昨年度比を出したかったのが、昨年度も行ったものについての比較を示した。

委員：若い人の参加者が多かった。インターンの方が来られて、パネルディスカッションに参加し、体験談にも出てもらい、世代間交流が出来て良かったと思う。体験談では埼玉の学生が帰省していて、体験談を将来聞けなくなったら大変だという思いで来てくれた。

③ コンサート事業「情熱と哀愁のアルゼンチンタンゴ」（資料13）

委員：先着順はなぜか。事業コスト、出演料はかなり高いのではないか。

事務局：広報が出てから数日おいてからの申込みとしていて、コストを考え先着順としている。

委員：平日に電話が出来る人は限られていて、申込みは休日にはならないか。有料にしてキャンセルが出ないようにならないか。

事務局：イベントダイヤルは平日の正午からと決められており、担当職員は待機することになっている。

事務局：昨年度リピーター率を調べたところ、10パーセントちょっとである。新しい方に来てもらっているのは事実である。

委員：一回の申込みで複数人ではなく、一人にしたら、多くの方が申し込めるのではないか。

事務局：イベントダイヤルで「キャンセル待ちをされたい方は当日何時何分から整理券を配ります」といった案内をしてもらっている。

④ 乳幼児の保護者向け家庭教育力アップ講座（資料14）

事務局：全8回講座である。効果指標の「遊びと発達の関係を具体的に知ることが出来た」は94%の回答を達成した。

委員：情報提供の適切性がBですか。

事務局：より多くの保護者の方に知ってもらえる工夫を更に図る、という意味でBである。

委員：生涯学習センターの情報をどのように提供するかという、自分達の反省ということによいか。

事務局：使えるツールを最大限利用しているか、ということでもある。子育て推進課の「子育てカレンダー」へ「きしゃぽっぽ」と同様に掲載に向けて調整を検討したいと考えている。

委員：「きしゃぽっぽ」とはどういう事業で、目的は何か。

事務局：「きしゃぽっぽ」は、月三回午後自由に親子で参加できる子育て広場のことで、学習や仲間づくりのきっかけをつくるということが目的である。講座は、子育ての各ステージでの課題について、講師の方を呼んで勉強をしつつ、他の参加者と話し合いながら、皆で考えていくという形式である。

⑤ 和光大学共催講座「アジアのビジネス最前線」（資料15）

事務局：「アジアの経済」について和光大学の経済学部の先生に講義をお願いした。アンケートの結果はとても良かったが、全回欠席者が出て、講座を選んで出席するなど、出席率は60%と低め

であったので、事業運営の効率性の評価がBである。

委員：企画者だが、和光大学との共催は4年目。前回まで「アジアの文化」について開催してきたが、今回は「アジアの経済」ということで、都内で働くビジネスマンが公民館に来るようなきっかけをつくれないうか、という考えで始めた。結果的に受講者は一般的な関心から受講される人が多かった。インドネシアに滞在していたことがある等、現地のことをよく知る方が更に関心を深めるために受講された方もいた。インドネシアの方が都内から来られて、交流が図られる場面もあった。回を重ねるうちに、広まっていくかもしれない。

事務局：開始時間は19:00（資料訂正）で、企画段階の18:00から遅くした。

委員：都内からの会社帰りの方には難しい。休日に企画してみてもどうか。

※議題の1. 生涯学習センターの役割と機能については、時間の都合上、次回の議題とする。

2. 報告事項

(1) センター長報告

- ・9月議会で生涯学習センターに関して「家庭教育支援は、どのような事業を行っているか。」「生涯学習審議会や運営協議会ではどのような意見が出ているか」という質問が出された。家庭教育支援については事業の説明をした。生涯学習審議会については生涯学習総務課から回答があり、センター運営協議会については、新しい委員が参加され、活発に意見を出されていることを回答した。議員からは、「協議会で活発に意見交換をしていただきたい。職員だけではなく、市民が入って考えていくことで事業の透明性を高め、より良い事業につなげて欲しい。」という意見が出された。

(2) 東京都公民館連絡協議会の活動についての報告

- ・第6回9月3日 委員部会の研修会の報告。

「新しい公民館像を目指して（講師：佐藤一子氏）」より

＜三多摩テーゼ＞（1974年）

- ①公民館は住民の自由なたまり場です。
- ②公民館は住民の集団活動の拠点です。
- ③公民館は住民の私の大学です
- ④公民館は住民の文化創造の広場です。

この4つのテーゼを超えるものは未だになく、ゴールであり、課題である。

- ・委員部会からの情報提供

10月9日（日）に「青少年のための科学の祭典 in 小金井」がある。 会場： 東京学芸大学